

いちごの輸出に係るサプライチェーン確立実証事業 (事業概要説明資料 概要版)

株式会社野村総合研究所

2025年



アメリカ等規制対応を要する大規模市場への展開も見据え、 サプライチェーン一体での規制対応輸出サプライチェーンモデル構築を目指す実証事業。

背景

- 日本産のいちごは他国産にはない甘さなどが高く評価され、輸出量は年々拡大している。
- しかし、中国や韓国等他国産の競争力も高まっており、香港など一部の地域では価格競争により日本での販売価格より低い卸値で取引されるケースもでている。
- そのような環境下においても、参入障壁の高い台湾等では高価格帯での輸出を継続できている一方、以下のようなマーケットニーズへの対応は十分に進んでおらず、今後の課題となっている。
 - ① 生産：残留農薬規制に対応した出荷の安定化・長期化
 - ② 流通：産地ごとに異なる出荷形態の統一化（パッケージ等）、輸送品質・効率の向上
 - ③ 販売：販売・マーケティングのしやすい商品設計（わかりやすいブランディング等）

目的

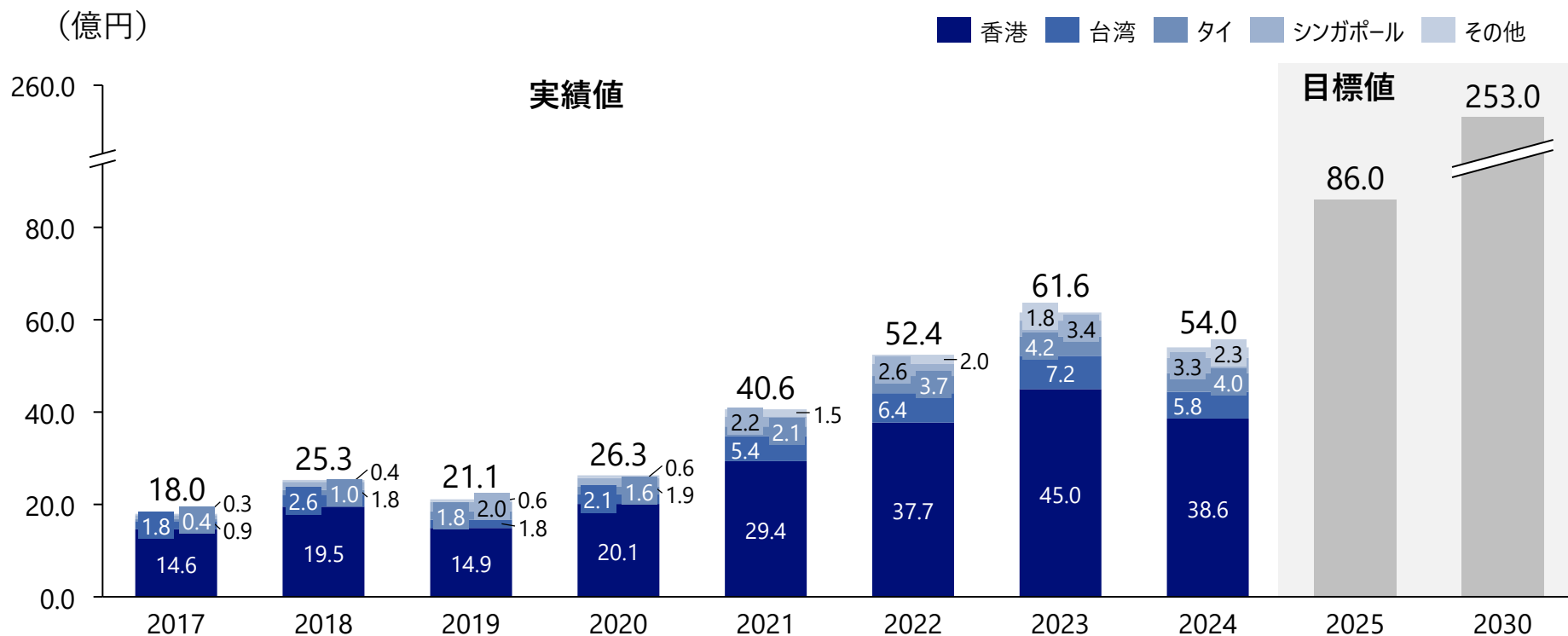
- 上記の課題は、個別産地個社での解決では限界があることから、生産から流通、販売までのサプライチェーン上流から下流までの事業者が連携し、輸出にかかわる各段階の課題解決策を検討・実証しいちご輸出のあるべき姿を明らかにする。

背景：いちごの目標値への進捗

「いちご」についても2025年の目標との開きがある状況。これまでの川下の販売中心の施策だけでなく、川上からサプライチェーン一体で輸出量増加を目指す取り組みが求められる。

- 2024年の生産量統計は公開されていないが、天候不順等により予定通りの出荷ができなかったという生産者の声や、主要な輸出先国4カ国全てで輸出額が低下していることから、生産量そのものの減少によるものと推察される。
- 残留農薬基準への対応や、天候不順への対応等には、生産側と販売側の連携し、安定供給を実現することが求められる。

いちごの輸出額の推移



出所) 農林水産省資料「農林水産物・食品の輸出実績 (品目別)」よりNRI作成

背景：需要が堅調な台湾

ドン・キホーテやコストコ、ファミリーマートで様々な日本のいちご関連商品が販売されており、大人から子供まで多様な層から指示を得ている。

台湾における日本のいちごに関するニュース

暖暖包近日大缺货，同様5點半到場的蔡先生，最想買的便是暖暖包，另外有媽媽想買日本零食、水果給孩子，尤其被大顆的熊本草莓吸引，也有人特地排休，想在開幕第一天就嚐鮮，攜家帶眷一起逛的也不少，頗有類出國氣氛。



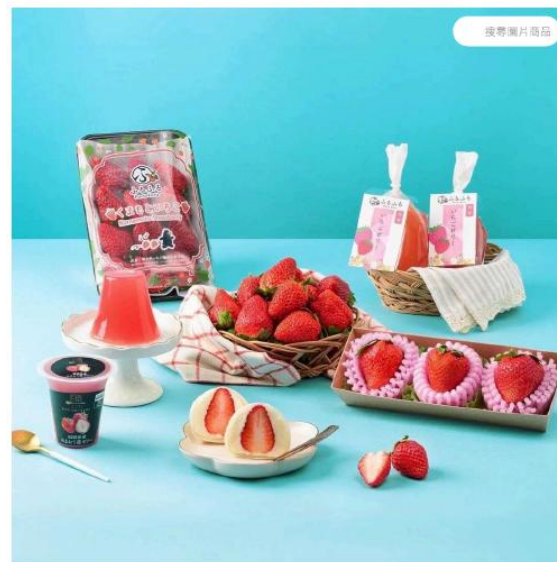
熊本県産のいちご

ストロベリーヨーグルト
アイスクリームは6日で
売り切れ



▲全家草莓優格霜淇淋，去年開賣短短6天就完售。（圖／業者提供）

你也開始爆吃草莓了嗎，DON DON DONKI唐吉訶德的「日本草莓季」開跑啦！冬季限定的酸甜好滋味，不論是新鮮Juicy的熊本草莓、Q彈草莓大福、滿嘴多汁的果凍、濃醇草莓巧克力和餅乾，無論是大人小孩通通都不能錯過，必須手刀衝一波。



▲唐吉訶德草莓季開跑，新鮮草莓、Q彈大福先搶吃。（圖／翻攝IG@dondondonkitw，下同）

DON DON DONKI唐吉訶德的「日本草莓季」活動開跑，除了新鮮草莓、甜點、糖果餅乾外，居然還有草莓味的飲品和保養護膚品，所有品項應有盡有，草莓控的荷包不保啦！絕對不能錯過鮮甜飽滿的日本熊本縣「熊本草莓」，以及少女最愛的草莓大福，看到絕對要手刀放進購物籃，超解饞的草莓果凍，下午茶來一顆，幸福度立刻破表。

台湾へのいちごの輸出は、堅調な需要が見込まれる一方で、生産コストの増加や残留農薬規制への対応など供給体制での課題を抱えていることから早急に対策が求められている。

生産面の課題

- 国内向けよりも手間やコスト負担が大きい

台湾向け輸出への取組

台湾の農薬規制に対応するため
手間とコストを多大に投下することが必須



グリセリンで害虫を窒息



一株つつ丁寧に手間暇かけ手入れ

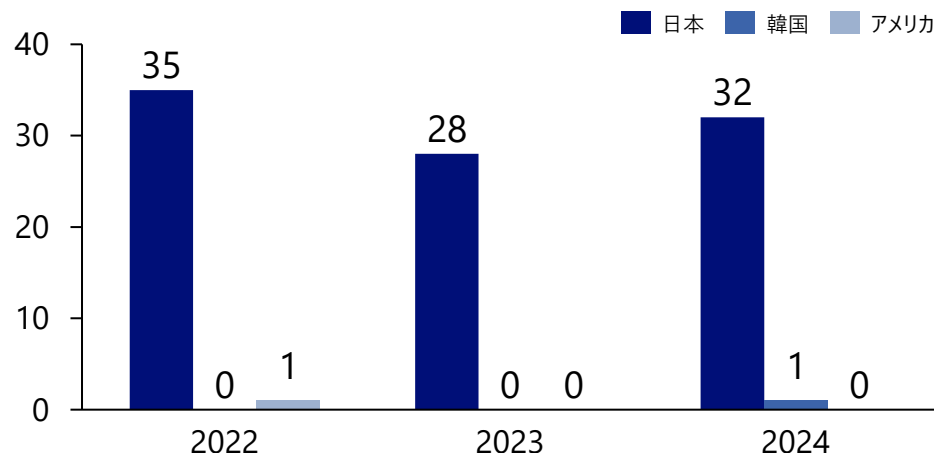
- 福岡県の特別栽培の認定を受けているが、台湾の農薬規制は県基準の2割程度
 - 残留成分の0.01mmも検出が許されない不検出の農薬も多数
 - いちごが花をつけた後11月～2月までは化学農薬不使用にする必要あり
- 人手をかけた徹底的なイチゴの見回り管理と、害虫の天敵をハウス内に放ち防除する生物農薬を利用する必要あり

出所) 株式会社うるう農園「福岡県内あまおう苺輸出に向けた取り組み」

流通面の課題

- 日本の生鮮いちごの残留農薬基準超過は年間30件程度存在
- 輸出事業者が国内用に生産・出荷されたいちごを市場調達し、輸出したことが主な要因と考えられる

(件)



出所) 台湾 衛生福利部食品薬物管理署HP 邊境檢驗不符合食品資訊查詢よりNRI作成

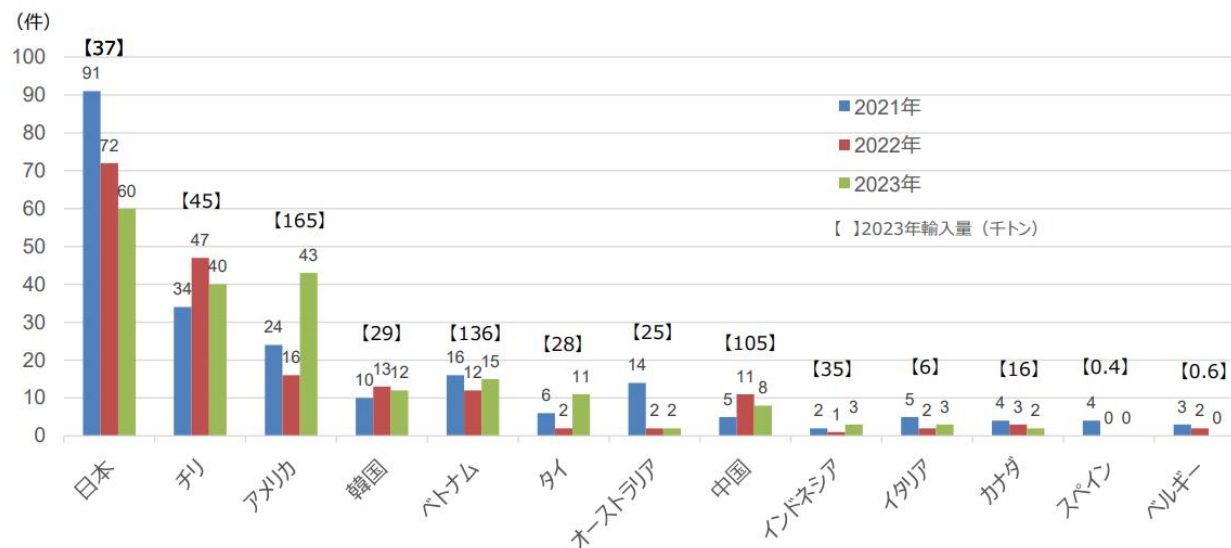
出所) 農林水産省「台湾向けいちごの輸出に係る状況について（令和6年3月）」

参考) 生鮮青果物の残留農薬基準超過件数

台湾輸入検査における生鮮青果物の残留農薬基準超過件数

- 台湾輸入検査における我が国の生鮮青果物の**残留農薬基準超過件数は、2023年は60件**となり、**他国と比べても非常に多い状況**。
- 今後の輸出拡大を円滑に進めるうえでも、**残留農薬基準に適合する農薬への変更や栽培技術の確立**など、当該問題の対応は急務。

○ 台湾輸入検査における生鮮青果物の残留農薬基準超過件数



資料：台湾衛生福利部食品藥物管理署webサイト及び※CPT webサイトを基に園芸作物課で作成
※2023年輸入量（千トン）は、台湾の輸入統計品目（7類及び8類）の合計重量
（第7類：食用の野菜、根及び塊茎）（第8類：食用の果実及びナット、かんきつ類の果皮並びにメロンの皮）

サプライチェーンに存在する各課題に対し、サプライチェーン一体での取組案を実施する。

	現状と課題	狙い	具体的な取組
生産	・ <u>不足する輸出可能な製品</u> ➢ 輸出先国の規制を満たす商品が必要に対し、十分に供給できていない	・ <u>産地の規制対応体制整備</u> ➢ 失敗による離脱者も一定存在し、普及が進まないIPMプログラムの普及のボトルネックを特定し、解消の方向性を示す ・ <u>大規模規制対応生産体制の確立</u> ➢ エクスポーター（出口）と一体となった大規模産地育成により、ローカル小売店の安定供給需要に応える生産体制を確立する	・ <u>既存実施事例からのKFS分析</u> ➢ 台湾輸出実績のある産地に対し、過去のバッドプラクティス（失敗事例）とその改善プロセスをヒアリングし、体系的に産地横断で事例を整理、根本原因とともにKFSをとりまとめる。 ・ <u>大規模規制対応生産実証</u> ➢ 大規模施設での試験生産を実施し、コスト・オペレーション面での有効性を検証するとともに、最適な規制対応プロセスを構築する。
出荷	・ <u>産地により異なる出荷形態・オペレーション</u> ➢ 出荷時の状態が産地毎に異なるため、産地毎に異なる対応事項が生じ、輸入者・輸出者の負担となっている	・ <u>統一規格・包材での出荷体制構築</u> ➢ 輸入者・輸出者負担を軽減させられる、かつ各産地においても実施可能な標準的な規格を設計する。	・ <u>統一規格の試験導入</u> ➢ 国内主要輸出産地の出荷規格及び台湾の輸入者ニーズを調査し、統一規格案を設計、試験導入し、実装可能性を検証する。 ➢ 包材規格により対応可能な輸送課題については試験的に対応策を講じ、高価を検証する。
輸送	・ <u>輸送時の破損・腐敗</u> ➢ 輸送中の腐敗等未だロスの発生によるコストが発生している ➢ また、コストをかければ輸送時の破損等対応可能だが、過剰スペックになりコストが嵩むケースも発生している		
販売	・ <u>国内産地間競争</u> ➢ 他国が国家大でブランドを形成する中、日本においては産地名を強調することで、国内間の競争となりマーケティングコストの重複や国内競争による販売機会損失が発生している。	・ <u>“日本産”・オールジャパンでの販売体制構築</u> ➢ オールジャパンでの販売体制を構築し、輸入者が販売しやすい体制、マーケティングコストを最適化した販売体制を構築する	・ <u>オールジャパンでの試験販売</u> ➢ 試験的にオールジャパンの販売体制を実施し、輸入者・現地消費者・産地の意見を集約しながら、最適な販売体制を目指す。

①「生産」における取り組みイメージ

フラッグシップ産地を含む産地を横断的に調査し、バッドプラクティス・改善事項を調査することで、残留農薬基準を守るにあたり重要なプロセス・実施事項を体系的にとりまとめる。

- 現時点では、台湾輸出実績があり、すでに関係者とコンタクト歴のある以下の産地から選定することを想定。
- フラッグシップ産地に該当する産地ともコンタクト可能な体制を構築済み。

調査先候補の概要

産地	取り扱い品種	2024作付面積（a）		2024年生産（kg）		フラッグシップ 産地
			内台湾対応面積		内台湾輸出	
非公開						

②「出荷」③「輸送」における取り組みイメージ

現状の輸出包材は過去からのばら積み文化で設計され、いちごの輸出時の主な輸送手段である航空輸送では非効率な輸送になってしまっている規格の改善を目指す。

輸送効率に関する問題点

問題点①：パレット上に無駄な空間が発生する

風車積みの中央部分や段ボールの周りなどに、利用できていない空間10%以上が存在する。

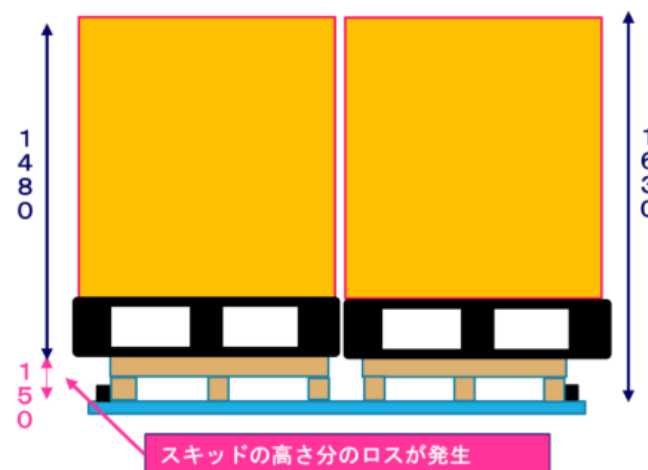
風車積みでのパレタイズ



※産地がわからないように画像を加工しております。

問題点②：航空輸送時に無駄な空間が発生する

PMCパレットに合わせたパレットを利用していない場合、航空輸送時に150mm程度のスキッド（木製すのこ）でかさ上げを行う必要がある。
現在は航空輸送でもT11をそのまま利用している事業者が多いため、段ボール箱2箱分の高さ（全体の容積の10%程度分）が無駄になっている。



出所) トーホー工業株式会社HP

④「販売」における取り組みイメージ

インポーター・小売・消費者に対するヒアリング・アンケート調査から、
産地の「地域」ではなく、「日本産」ブランドの優位性を探索する。

調査実施先

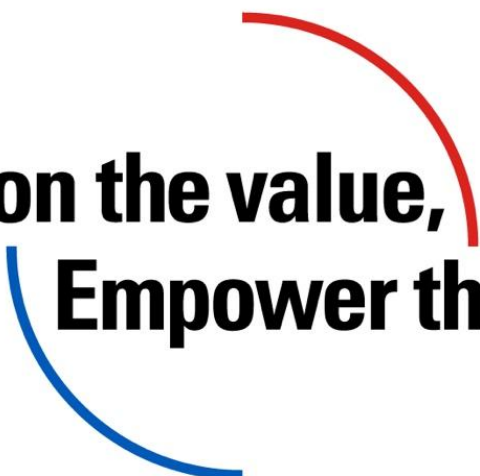
- 店舗数が台湾で■■位のローカルスーパーの■■■を中心にアンケート・ヒアリングを実施する。

非公開

調査項目例

- 消費者の日本産いちごへのニーズを確認する調査を実施し、その一部として産地名のパッケージへの表記に関する調査も実施する。

調査項目	論点・目的
1. 重要項目の順位付け	✓ 消費者がいちごを購入する際に、どのような要素（味、見た目、価格、鮮度など）をどの程度重視しているかを把握する。
2. 日本産いちごの長所	✓ 日本産いちごが持つ競争上の強みや、市場で評価されているポジティブな要素（品質、ブランドイメージ等）を明らかにする。
3. 日本産いちごの短所	✓ 日本産いちごが抱える課題や、競合国製品と比較して劣る点（価格、鮮度維持、供給安定性など）を特定する。
4. 産地名・品種名の魅力度	✓ どの日本の「産地名」や「品種・ブランド名」が、消費者にとって高い訴求力やブランドイメージを持っているかを明らかにする。



**Envision the value,
Empower the change**